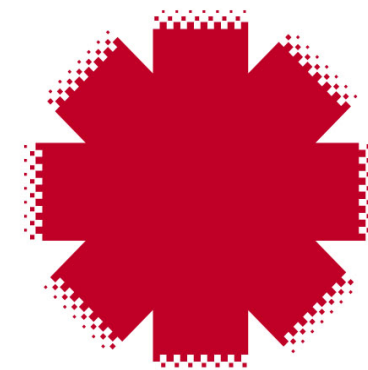


東燃ゼネラル石油株式会社

2006年1-9月/7-9月期業績および年間予想

2006年11月14日



Tonen General

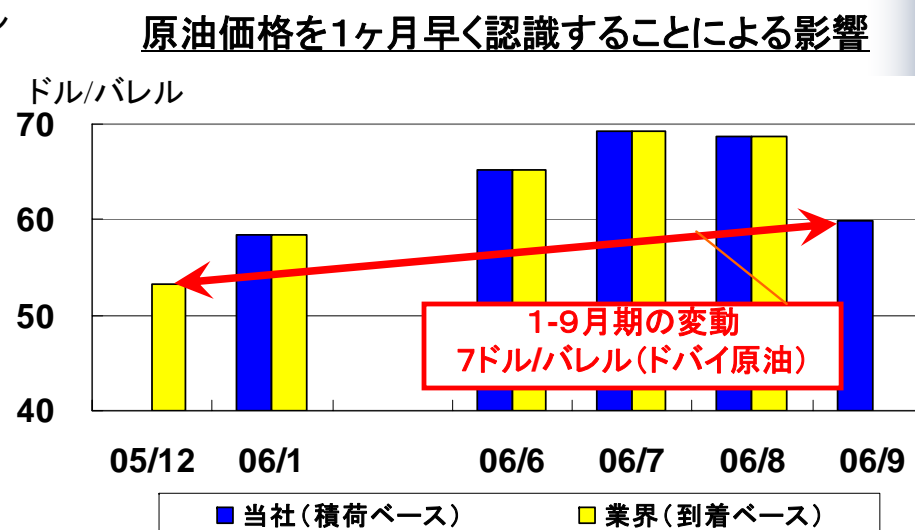
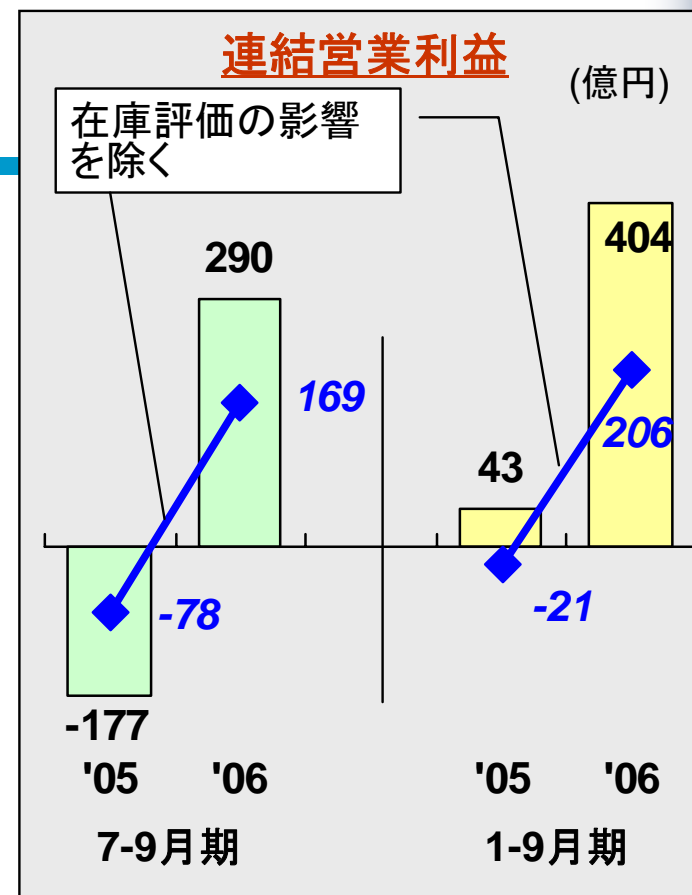
見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく影響を受ける業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

業績ハイライト

■ 連結営業利益は、前年同期比、ならびに今年度の各四半期との比較においても大幅に改善

- » 石油部門におけるマージン改善
 - 業界他社より約1ヶ月早く原油価格を認識することによるマイナスの影響が主に9月の原油価格の下落により前年同期に比べ軽減
 - しかしながら原油価格、収益ともに、引き続き毎月の変動が大きい状況
- » 石油化学部門が引き続き連結利益に貢献
 - 活発な需要に支えられ、オレフィン類およびパラキシレンが好業績
- » 経費削減は計画通り
- » 在庫評価は増益要因
- » 1株あたり37円の年間配当見通しに変更なし



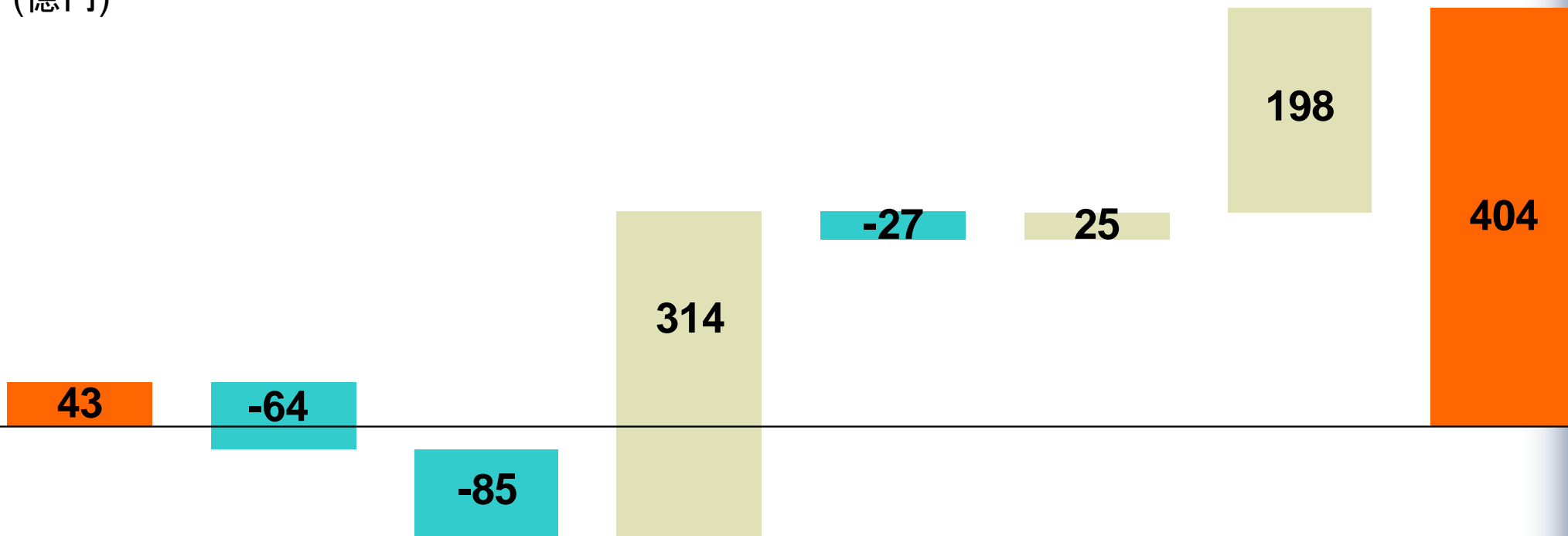
損益計算書 [1-9月期、連結]

(億円)	'05	'06		増減	
	1-9月期	上期	7-9月期		1-9月期
売上高	20,747	14,798	8,097	22,895	2,148
営業利益	43	114	290	404	361
経常利益	71	153	306	459	388
特別損益	11	-5	-8	-13	-24
当期純利益	59	101	178	279	220
在庫評価の調整	-64	-77	-121	-198	-134
調整後営業利益	-21	36	169	206	227
石油部門 他	-389	-183	61	-122	267
石油化学部門	367	219	108	327	-40

営業利益の要因分析

[1-9月期業績の比較、2006年 vs. 2005年 連結]

(億円)



'05 1-9月期
営業利益

'05
在庫評価益
(調整)

販売数量*

マージン

石油製品

石化収益

経費削減

'06
在庫評価益

'06 1-9月期
営業利益

* 主要製品を基準とする(5ページ参照)

販売数量/稼働率

- 大幅に増販した前年同期と比べ、ほとんどの油種で販売数量が減少、特に灯油は暖冬による影響大
全油種ともに昨年の特需要因の反動により減少
- 輸出の機会を含め、収益性重視の販売に注力
- 化学製品の販売数量減少: 7-9月期に川崎工場のスチームクラッカー定期修理
- 設備稼働率が前年同期比で低下: 堺工場でのシャットダウンと定期修理、川崎工場および南西石油での定期修理

石油製品 (連結、バーターを除く)

(千KL)		'05 1-9月期	'06 1-9月期	増減	業界 増減
製品	ガソリン	9,211	8,732	-5.2%	-1.6%
	灯油	3,369	2,650	-21.3%	-9.7%
	軽油	3,773	3,244	-14.0%	-2.6%
	A重油	3,055	2,557	-16.3%	-11.2%
	C重油	2,337	2,070	-11.4%	-5.1%
	LPGその他	2,628	2,239	-14.8%	N/A
部門別	販売部門(ゼネラルブランド向)	6,492	5,554	-14.4%	
	精製部門(エッソ/モービル/キグナス向)	17,879	15,937	-10.9%	
	小計	24,371	21,492	-11.8%	-5.1%
	その他*	5,800	6,769	16.7%	その他*: 潤滑油、原油、輸出、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む
	総計	30,171	28,261	-6.3%	

化学製品 (連結)

(千トン)		'05 1-9月期	'06 1-9月期	増減
	オレフィン類他(東燃化学分)	1,382	1,304	-5.6%
	芳香族(東燃ゼネラル石油分)	612	570	-6.9%
	化学製品合計	1,994	1,874	-6.0%

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース、単体/連結) 87%/82%

78%/74%

85%

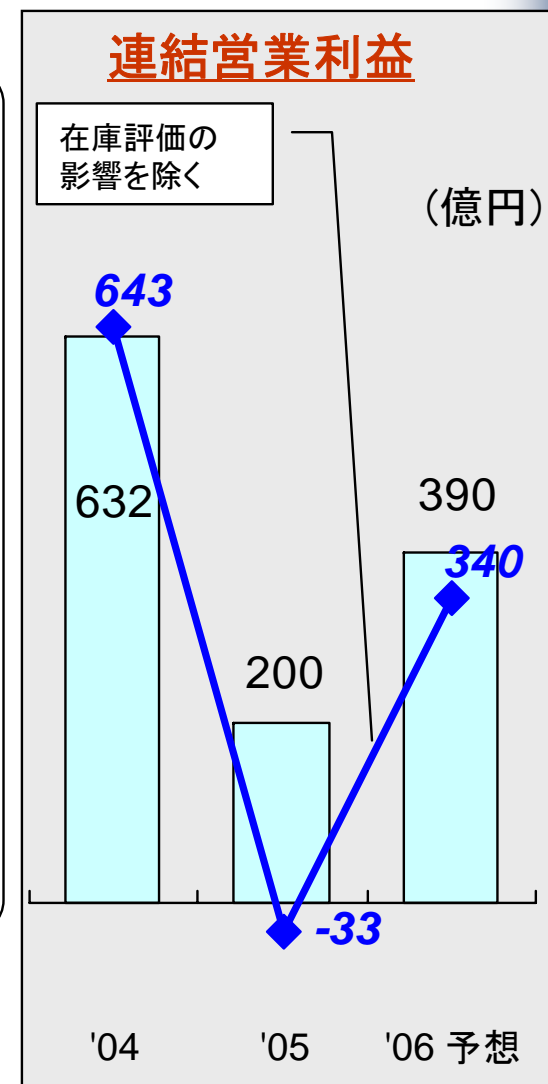
2006年10-12月期 業績予想前提条件の修正

- 燃料油マージン 前回予想よりわずかに改善
- 燃料油販売数量 前回予想とほぼ同じ
- 石化製品マージン ベンゼンを除き、前回予想よりも改善
- 石化製品販売数量 前回予想から変更なし
- 経費 前回予想から変更なし
- 在庫評価の影響 通年で50億円の後入先出法(LIFO)による利益を予想
[前回予想から変更なし]
- 原油価格・為替レート 57.9ドル/バレル(ドバイ)、117.9 円/ドル – 2006年9月末の値
[売上高の計算のみに使用]
- 在庫評価方法 後入先出法(LIFO)/低価法を継続

業績予想の修正 [連結]

- 2006年通期の調整後営業利益は2005年の実績に対して373億円増加
- 年末の在庫水準の予想から、2006年通期で50億円の後入先出法による在庫評価益を見込む

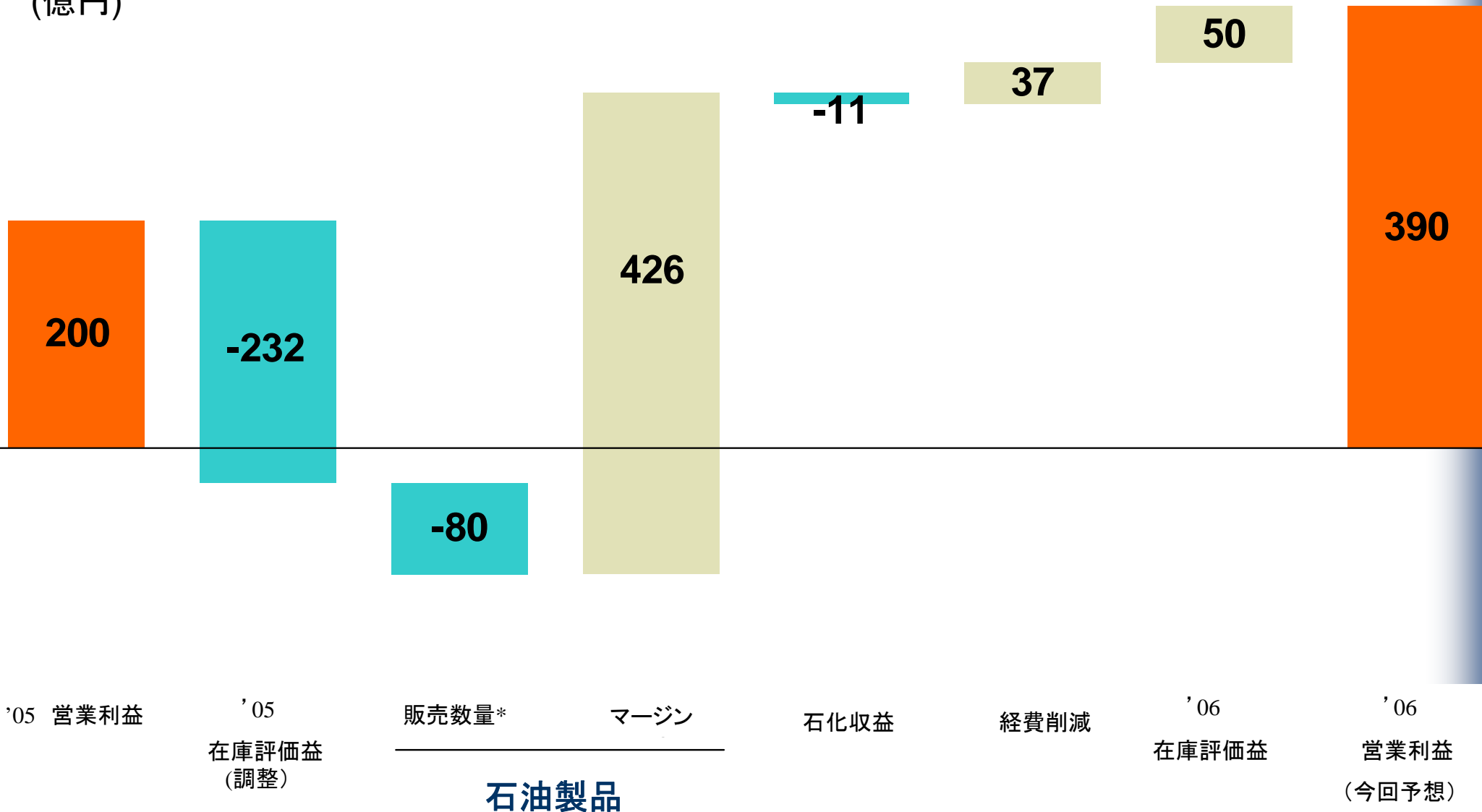
(億円)	'05	'06 予想	1-9月期 実績	10-12月期 予想
売上高	28,562	31,400	22,895	8,505
営業利益	200	390	404	-14
経常利益	228	450	459	-9
特別損益	-24	-20	-13	-7
当期純利益	130	270	279	-9
在庫評価の影響	-232	-50	-198	+148
調整後営業利益	-33	340	206	134
石油部門 他	-487	-90	-122	32
石油化学部門	455	430	327	103



営業利益の要因分析

[2005年実績 vs. 2006年修正予想(今回) 連結]

(億円)



* 主要製品を基準とする(5ページ参照)

補足資料

2006年11月14日

キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)

'06 1-9月期

営業活動 / 投資活動

税引前当期利益	446
設備投資額/減価償却費	-107
たな卸資産	-244
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	-426
その他	-9

-340

財務活動

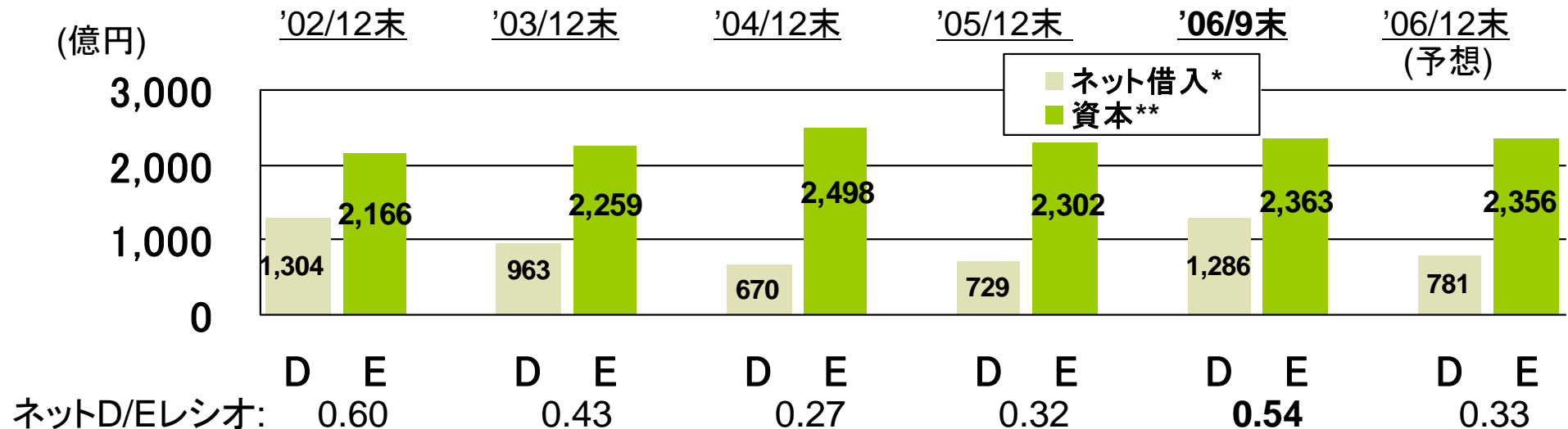
借入金の増(減)	549
配当金の支払額	-208
自己株式の取得	-7
その他	4

338

現預金の増減

-2

- 7-9月期の一時的な要因（たな卸資産、和歌山工場の定期修理に伴う原油買掛金の低下、期末が銀行休業日であったことの売掛金への影響など）が運転資本に影響し、9月末のネット借入が拡大
- これら一時的要因の解消により、12月期末のネットD/Eレシオは昨年実績程度と予想
- 健全な財務状態を維持



*現預金・貸付金等の影響を除いた借入金、**少数株主持分を除く純資産